

## 令和元年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立図書館 (千代田図書館、日比谷図書文化館、 四番町図書館、昌平まちかど図書館、 神田まちかど図書館)	所在地	【千代田】千代田区九段南1-2-1 【日比谷】千代田区日比谷公園1-4 【四番町】千代田区四番町1 【昌平まちかど】千代田区外神田3-4-7 【神田まちかど】千代田区神田司町2-16
-----	--	-----	---

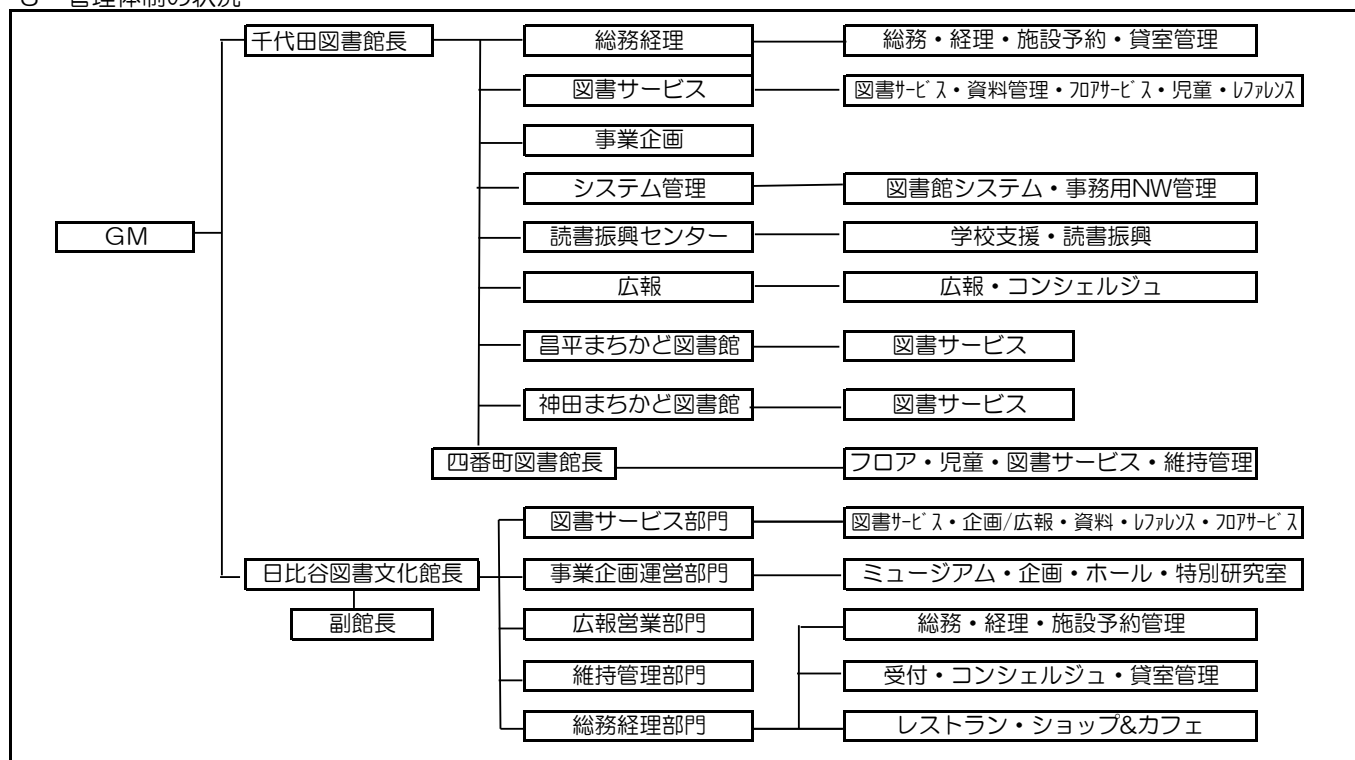
### 1 指定管理者の概要

名称	千代田ルネッサンスグループ	代表者	(株)小学館集英社プロダクション 代表取締役社長 都築 伸一郎 構成企業：(株)ヴィアックス 代表取締役社長 小川 巧次 ：(株)図書館流通センター 代表取締役社長 細川 博文 ：サトリ・パブリシティ(株) 代表取締役社長 間野 文祥 ：(株)シェアード・ビジョン 代表取締役社長 菅谷 彰 ：大星ビル管理(株) 代表取締役社長 寺島 剛紀
所在地	千代田区神田神保町2-30		
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	報告期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日

### 2 管理施設の概要

施設の目的	区立図書館の伝統と新しい行政に取り組む千代田区の特徴を生かし、文化情報資源の総合センターとしての役割を担い、基本的な図書館サービスの拡充や区民の生涯学習に資するとともに、新たな事業やサービスを積極的に展開し、公共図書館の将来像を全国に発信していく。
管理業務の内容	(1) 図書館の利用に関する業務 (2) 図書館の事業の実施に関する業務 (3) その他、館の運営に関し必要と認める業務

### 3 管理体制の状況



### 4 事業実績等

#### (1) 来館者数

	千代田図書館	日比谷図書文化館	四番町図書館	昌平まちかど図書館	神田まちかど図書館
令和元年度	567,791人	702,565人	209,955人	88,896人	154,066人
平成30年度	587,151人	761,301人	266,505人	101,341人	166,294人
平成29年度	600,403人	664,918人	261,561人	102,169人	167,856人

#### (2) 図書館業務 (令和元年度)

施設名	登録者数	蔵書数	貸出数 (団体貸出を含む)	レファレンス受付件数	データベース利用件数
千代田図書館	24,006人	207,551点	289,033点	4,836件	4,351件
日比谷図書文化館	26,441人	224,973点	171,435点	3,768件	2,339件
四番町図書館	6,778人	86,155点	210,897点	2,521件	0件
昌平まちかど図書館	2,718人	29,072点	69,973点	-	-
神田まちかど図書館	4,244人	29,587点	145,933点	-	-

## 5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料（図書館事業運営）	786,779,000円	人件費	526,438,557円
指定管理料（学校図書館等司書派遣）	60,076,000円	資料費	81,657,378円
研修室、会議室、ホール使用料	32,718,924円	システム運営費	2,682,843円
レストラン・ショップ&カフェ販売料	87,988,863円	広報費	15,255,599円
日比谷カレッジ受講料	5,832,696円	一般運営費	39,551,943円
特別研究室利用料・日比谷ラボラトリー売上	3,468,300円	維持管理費	156,814,551円
特別展示室入場料	3,725,700円	一般管理費	20,185,185円
コピーサービス利用料等	3,167,910円	事業費	140,479,371円
合計（①）	983,757,393円	合計（②）	983,065,427円
収支差額（①－②）	691,966円		

## 6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>前年度後半より回復傾向にあった千代田図書館の入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響が出るまで、順調だった。日比谷図書文化館の入館者数は、前年商業施設の開設の影響等で大きく伸びた入館者数が漸次落ち着き、前年を下回る月が続くこともあった。四番町図書館は仮施設への移転のため1月15日より閉館。昌平・神田まちかど図書館は入館者が減少傾向という状況下、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で全館サービスを一部中止する状況となり、前年度188万2千人の入館者が15万9千人減少し172万3千人となった。具体的には2月27日から、開架書庫への立入りと閲覧席使用の中止の他、日比谷カレッジやおはなし会などのイベントも中止した。</p> <p>しかしながら、新規登録者数や貸出冊数では、2月度まで全館で、千代田区在住者を中心に前年実績をほぼ確保していた。</p> <p>ファミリーフィールドの充実として、これまで対象としてこなかったパパ向けの読み聞かせ講座や、今年度から開始した区内の児童施設へのリサイクル本の提供は予想以上の反響があり、私立の児童施設への支援も課題となった。</p> <p>利用者アンケートでは、各館ともに「利用者満足度」において高い実績が出ているが、「蔵書に対する満足度」は、千代田図書館で83.1%、日比谷図書文化館で85.3%と決して高いとは言えず対応が必要である。また、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受けて、Web図書館への注目が高まってきており、所蔵タイトル数の充実を図っていきたい。今後も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の対策を万全に行いながら、図書館サービスとのバランスをとることが肝要と考える。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月27日より一部サービスの中止を行ったため事業収入が減少したが、決算規模で前年度の9億7千万を上回り、支出総額も収入総額の範囲で収まり健全な指定管理料の執行ができた。</p> <p>【収入】 一部サービス中止のため3月度の売上は貸室約7割減、レストラン約6割減、コピーサービス約9割減。他、日比谷カレッジ共催の中止などの影響があった。</p> <p>しかしながら、ショップのリニューアルによる売上増、特別展示入場料約5割増、特別研究室のセミナー参加約1.5割増などでカバーできた。</p> <p>【支出】 全体的に支出の増加は収入増の範囲内で、指定管理料も予算通りの執行ができた。</p> <p>人件費、運営費は1%未満の増加に抑えられ、資料費は、四番町図書館と向まちかど図書館の新規購入や汚破損等による資料の買換えを優先し千代田図書館の資料費を抑えた。日比谷図書文化館では、データベースと資料の買換えを優先し、千代田図書館では、視聴覚資料の充実を図った。事業費の増加は、ショップ売上増に伴う仕入増によるものだが、今後、新型コロナウイルス感染症の影響拡大と長期化に伴い収支面でも厳しい影響を受けることが懸念される。</p>

## 7 区としての評価・今後の方向性

<p>令和元年度の区立図書館の来館者数は、約172万3千人（千代田図書館 約56万8千人、日比谷図書文化館 約70万2千人、四番町図書館 約21万人、昌平まちかど図書館 約8万9千人、神田まちかど図書館 約15万4千人）で、前年度と比較すると約15万9千人の減少となった。大幅な減少の要因としては、四番町図書館の仮施設移転に伴う休館で約5万5千人減少したことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大により、一部サービスを休止した影響が大きいと考えられる。従来のサービス提供が困難な状況下においては、Web図書館への期待が高まっており、さらなるコンテンツの充実が望まれる。</p> <p>四番町図書館の仮施設移転にあたっては、各館において、利用状況や汚損状況などから除籍を進め、四番町図書館資料の一部を受け入れるなど、区立図書館全体の適切な資料構成の維持に向けた取組みが行われた。児童サービスの拠点である四番町図書館として、仮施設移転後も可能な限り児童サービスを継続できるよう努めていただきたい。さらに、全館で連携して「第3千代田区子ども読書活動推進計画（令和元年7月策定）」に基づき、新たな児童サービスにも取り組んでいただきたい。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルスの感染状況等に応じて、サービスの内容や事業実施方法を見直すとともに、図書館利用者やイベント参加者等に対しても注意喚起を行うなど、感染防止対策を講じたうえで、図書館サービスを提供していくことを期待する。</p>
---